

日産婦人会発第 242 号
2017 年 10 月 10 日

各都道府県産婦人科医会長 殿

日本産婦人科医会常務理事
横浜市大国際先天異常
モニタリングセンター長
平原 史樹

謹啓 時下先生方にはますますご清祥の御事とお慶び申し上げます。

さて、9 月末頃に「神経管閉鎖障害の予防研究会」（代表：熱田リハビリテーション病院 近藤厚生氏他）から郵送により、日本産婦人科医会外表奇形等調査協力施設宛として、神経管閉鎖障害症例（二分脊椎、無脳症）の人工妊娠中絶数などを尋ねる調査用紙が届いているかと存じます。

この依頼文中には、横浜市大国際先天異常モニタリングセンター（クリアリングハウス国際モニタリングセンター日本支部）及び日本産婦人科医会等が本アンケートに連携していると誤解を招きかねない表現が記載されておりますが、**本調査は日本産婦人科医会、横浜市大国際先天異常モニタリングセンターはまったく関与しておりませんので、その旨ご承知ご理解のほどお願い申し上げます。**

日本産婦人科医会外表奇形等調査は、現時点では横浜市立大学医学研究倫理委員会の承認下に厳密な運用規定で集計・解析を行っており、調査に関する種々の変更等は日本産婦人科医会先天異常委員会、また日本産婦人科医会理事会で慎重に審議の上実施しております。

今般の調査の件につきましては、なんら横浜市大国際先天異常モニタリングセンター（クリアリングハウス国際モニタリングセンター日本支部）及び日本産婦人科医会に相談等もなく、調査が実施されております。皆様方には大変ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

なお、本状は各都道府県産婦人科医会長宛てにお送りしておりますが、追って各日本産婦人科医会外表奇形等調査協力施設に同様の書面をお送りする予定です。

今後ともよろしくご指導ご鞭撻またご協力のほどお願い申し上げます。

謹白